

脱・産廃

〜わが挑戦〜

エスアール 坂口純則社長

今期最高収益が見込まれるエスアール(神奈川県厚木市)。4年前、経営を任された坂口純則氏は有害物が付着した機器や設備の洗浄など他社が手を出さない作業分野に特化し、売上を伸ばした。自ら先頭に立ち、突破口を開いた同氏の胸には「小さな会社だからやれることがある」との堅い信念があった。

「社長になってほし 社には小さな会社ならい」。JFE環境を定年 での戦略がある」と退職後、以前から知っ 産廃に代わる新たな事していたエスアールの活 業を模索し始めた。や 谷英明社長(当時)に がつて「自社の強みを生 声を掛けられた。当時、 かし、差別化すること エスアールを取り巻く で突破口は開ける」と 環境は厳しく、再建を の結論に達する。自社 託された形。しかし、 の強みとは「人」。同社 迷いはなかった。社員 には有害物絡みの現場 80人と小規模だが、こ 作業に慣れた従業員 が少なくなかった。「そ ば役に立てると直感、 れぞれいい技術を持っ 引き受けた。2011 ているのに、それが共 年に副社長、18年に社 有されていなかった。 長に就任。「小さな会 しかし、互いに学び合

小さな会社だからやれること

自社の強みを生かし、突破口



社員に気さくに語りかける坂口社長(右)、受注増につながっている。

一方、PC

Bやアスベス

トなど他社が

あまり手を出

さない分野に

も挑戦。現在、

PCB廃棄

物、アスベス

ト含有廃棄

物、廃乾電池

の処理などを

うことで全員のレベル

行い、差別化に余念は

が向上するはず」と訴

え、後押ししていった。

そうした中、産廃の 管(当時)に就職。社会 処理以外で顧客が困っ 人スタートは労務管理 ている問題を解決する 部門だった。現場で働 サービスを考案していく 一人一人に寄り添 いく。たとえば熱交換器 い、意欲を高める励ま の洗浄、濃硫酸タンク しの大切さは五体に染 や塗装ブースの清掃、 みている。「社員のこと 設備解体からアスベス を考えると、いまでも ト除去、汚染土壌除去 胸が熱くなる」と笑う。 工事までの一貫施工な 「苦しいときもあるが、 ど。そうしたかゆいと 小さな会社の社長は自 ころに手が届くサービ 分にある」と晴

すが顧客の信頼を高 れやかに語った。